

みんなの健康ラジオ

『にょいの異常と病気』

(2024年5月16日放送)

横浜市耳鼻咽喉科医会

横浜市立市民病院

塩野 理

嗅覚障害の原因

- においの素が嗅神経の受容体に結合すると刺激が生じ、嗅球から脳まで伝わりにおいとして感じられる
- 様々な原因でにおいの異常（嗅覚障害）が生じる
 - ①においの素が嗅上皮まで届かない：鼻詰まり、鼻茸、花粉症、腫瘍、異物
 - ②嗅上皮に異常がある：蓄膿症、新型コロナを含む急性上気道炎、薬の副作用
 - ③嗅神経からの繊維が頭蓋内まで到達する経路の問題：頭部外傷
 - ④においを理解する脳の問題：頭蓋底腫瘍、カルマン症候群、アルツハイマー型認知症、パーキンソン病

嗅覚障害の種類と検査

- 嗅覚障害の種類

- ①嗅覚脱失：においが全く感じられない
- ②嗅覚減退：においが少ししか感じられない
- ③異臭症：本来とは違う匂いで感じられる
- ④嗅盲：特定のにおいだけ感じない
- ⑤嗅覚過敏：特定の匂いについて強く不快さを感じる

- 嗅覚検査

- ①アリナミンテスト：薬剤を注射する検査
- ②T&Tオルファクトメトリー：色々な香りを嗅ぐ検査

嗅覚障害を引き起こす疾患

- 副鼻腔炎：いわゆる蓄膿症、膿が溜まったり、粘膜が腫れたり、ポリープができる
- 花粉症を含むアレルギー性鼻炎：粘膜が腫れたり、鼻汁がたくさん出る
- 急性上気道炎：粘膜が腫れたり、鼻汁がたくさん出たり、嗅上皮に障害を引き起こす（新型コロナウイルス）
- 頭部外傷：頭を強く打ちつける事で、嗅神経が断裂
- 頭蓋底腫瘍：嗅神経そのものの脳腫瘍など
- カルマン症候群：先天性の病気で、脳下垂体からのホルモンの異常と嗅覚障害が特徴
- アルツハイマー型認知症、パーキンソン病：嗅神経や大脳辺縁系、大脳の異常

においを取り戻す！

- 近年、嗅覚リハビリテーションが注目されている
- においの神経細胞は、他の神経細胞と異なり再生する
- 自分が嗅いだことのある香りを1日2回嗅ぐことで、新たな嗅覚神経細胞の経路を作り直す
- 3カ月ごとに香りを変化させると、よりたくさんの匂いをかぎ分けることが出来る
- 新型コロナウイルス感染後の嗅覚障害にも効果があり、注目されるようになった
- あきらめずに色々な香りを嗅ぐことが勧められる